

聖書箇所：ルカの福音書 6章 27～34節

説教題：あなたの敵を愛しなさい

1 あまりにも高いハードル

今日の箇所にはクリスチャンでない方にもよく知られているみことばがいくつか記されています。「あなたの敵を愛しなさい。」

「あなたの片方の頬を打つ者には、ほかの頬をも向けなさい。」私がまだ信仰をいただくずっと以前のことで、なにかの本の中でこのみことばに出会った記憶があります。その時私はこう思いました。「確かに、そんなことができれば美しいとは思いますが、私には無理だ。クリスチャンは、このようなことを普段から実践しているすばらしい人たちに違いない。私にはあまりにもハードルが高くとても近寄りがたい。」

私はいまはクリスチャンになりましたが、依然としてこのみことばは高いハードルのままです。皆さんはいかがでしょう。おそらく同じように難しさを感じているのではないのでしょうか。

いつも言うようですが、イエスは私たちができそうもないことを命令するお方ではないはず。むしろ、私たちに自由をし、解放するために来てくださったはず。であれば、いったいイエスはここで私たちに何を語ろうとされているのか。その事を考えて参ります。

2 あなたの敵を愛しなさい

27節から31節を読みます。「あなたの敵を愛しなさい。あなたを憎む者に善を行いなさい。あなたをのろう者を祝福しなさい。あ

なたを侮辱する者のために祈りなさい。あなたの片方の頬を打つ者には、ほかの頬をも向けなさい。上着を奪い取る者には、下着も拒んではけません。すべて求める者には与えなさい。奪い取る者からは取り戻してはいけません。自分にしてもらいたいとのぞむとおり、人にもそのようにしなさい。」

皆さんはこのみことばを読んでどんな印象を持たれるでしょうか。これはできるけれどこれはできない。いろいろなことが心に浮かんだかもしれません。

いま最後に読みました、「自分にしてもらいたいとのぞむとおり、人にもそのようにしなさい」を、私たちが普段使っていることばに言い直せば、おそらく「思いやり」ということばがぴったりかもしれません。ですから、このことばはすんなり受けとめられたかもしれません。

では、ほかのみことばはどうでしょう。「あなたの敵を愛しなさい。」美しいことばです。これが実際にできたらどんなにすばらしい世界になるだろうかと、あこがれています。しかし、次のみことばはどうでしょう。「上着を奪い取る者には、下着も拒んではいけません。すべて求める者には与えなさい。奪い取る者からは取り戻してはいけません。」

日本語には「盗人に追銭」ということわざがあります。家のものを盗んで懐にしまい込んでいる泥棒に対して、家の主人が「あなたは大変お困りのようだから」と言って、財布からお金を渡してやる。そんな意味です。お

金を渡した主人はすばらしいという意味ではなく、そんなことする者は愚かであるという意味で使われます。

イエスがここで言われていることは、私たちの常識から見ればほとんど愚かではなかったことにしか見えません。ある方は言うでしょう。「イエスが言っていることは、あまりにも理想的過ぎる。理想ばかり追っても何も物事は解決しない。それよりも現実にどう対処するかが大切だ。」またある方は言うでしょう。「『片方の頬を打つ者には、ほかの頬を向けなさい。上着を奪い取る者には、下着も拒んではいけません。』こんなことをして、いったいどんな得があるのか。もし本当にイエスの言うとおりにしたなら、こちらが生活に困るようになる。いったいどうやって生きていけと言うのか。」

私たちの人生の中で、実際に頬を殴られるということは、ほとんど起きないことですから、ほかの頬を向けるべきかどうかと悩むことはないかもしれません。また目の前で自分の上着を奪い取られることも、ほとんどありませんから、下着も与えるべきかどうかと思わず悩むようなことはやっばりないかもしれません。

しかし、27、28節のみことばはどうでしょう。「あなたの敵を愛しなさい。あなたを憎む者に善を行いなさい。あなたをのろう者を祝福しなさい。あなたを侮辱する者のために祈りなさい。」

上着を奪われることはほとんどなくても、ある人から憎まれることは、しばしば起きてしまいます。信頼していた相手に裏切られることがあります。ひどいことばで中傷を受けることもあります。私たちはいろいろなことで悩みますが、おそらく人間関係の悩みがか

なりの部分を占めている言っているいいかもしれません。立派な家があっても、三食食べることに困っているわけでもないのに、人間関係の苦しみを抱えて、自分は不幸だと感じている方が沢山おられます。

ですから、もし簡単に敵を愛することができたら、私たちの悩みの多くは消えてなくなるでしょう。もし憎む者のために善を行うことが簡単にできるのなら、世界はかなり住みよいものになるはずですが、それができないから、みな困っています。それなのにイエスは、私たちができるかどうかなどお構いなしに、次から次へと無理難題を突きつけているように感じてしまいます。

3 罪人たちには絶対にできない

そればかりではありません。イエスは追い打ちをかけるようにこんなことまで言うのです。32節。「自分を愛する者を愛したからといって、あなたがたに何の良いところがあるでしょう。罪人たちでさえ、自分を愛する者を愛しています。」

仲良しの友達ならば愛することは難しいことではないでしょう。愛する家族のためなら、死んでも良いと考える人もいます。「すべての人を愛することはできないけれど、自分の身のまわりにいる家族や気のあった友人を愛するなら、誰をも愛さないということよりよっぽどいいことではないか。」そんなふうを考える方もいるでしょう。

しかしイエスは言います。「そのようなことは罪人たちでさえしていることです。」つまり、その程度の愛し方ではまったく不十分だと言うのです。それでもだめだというのなら、いったいどうしたらいいのかと途方に暮れてしまいます。

最初にも触れたように、イエスは私たちを責めようとしているのではないはずで、厳しく聞こえるけれど、よく考えると実はそうではない。イエスは逆のことを言おうとしているのではないか。そのように考えたらどうなるでしょう。つまりこうです。

「あなたがたは罪人なのだから、どんなにがんばってもせいぜいできることは自分を愛する者を愛することだけでしょう。あなたがたは罪人なのだから、自分に良いことをしてくれる者に良いことをするくらいでしょう。あなたがたは罪人なのだから、人に貸すときは返してもらうつもりでいたとしてもしょうがないでしょう。」

イエスは最初からご存じなのです。私たちが敵を愛することなどできないということ。今日読んだすべにおいて、私たちはできないことを承知の上でお語りになっています。

4 罪のない方がすべてを成し遂げてくださる

できないことを知っていながら、ではなぜ「あなたの敵を愛しなさい」というような言い方をどうしてするのでしょう。

その理由は、イエスが非常に慎み深いお方であることに関係しています。この方は、自分はこれからあなたがたの罪の身代わりとなって十字架に着くのだからありがたく思いなさい、というような恩着せがましいことはいっさい語りません。その代わりに、この方はちょっと変わった言い方をされます。それが今日の箇所でもあります。

イエスは、一つの大前提から話を進めています。私たちは全員例外なく罪人であるという大前提です。罪人は、絶対にこのハードル

を越えることはできません。そこから引き出される結論は一つです。私たち全員、このイエスの命令を守ることはできない。

ではいったい誰がこの高いハードルを越えられるのでしょうか。罪のない方しかこれを越えることはできません。罪のない方とは誰ですか。このことばをお語りになっているイエスご自身です。

お気づきになったでしょうか。イエスは、ご自分がこれからはさろうとしていることを、お語りになっていたのです。

「あなたを侮辱する者のために祈りなさい」とあります。確かにこの方は、十字架で祈られました。「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」いったい誰のために祈られたのですか。イエスの着物を分けていた兵士たちのためにです。この方は上着を奪い取られただけでなく、下着も取られました。このように見ると、イエスが十字架でされようとしていることを、ここで示していたのだと気がつくのです。

「あなたの敵を愛しなさい。」これを言い換えれば、イエス・キリストは、敵を愛してくださいということになります。敵とは誰のことですか。私たちはアダム以来神に反逆した者ですから、私たちは神の敵なのです。神を憎んできたのです。神を呪ってきたのです。神を侮辱してきたのです。イエスの頬を打ち、下着も奪いました。けれども、神は私たちを愛し、善を行い、祝福し、祈りました。私たちはこの方に大きな借りがあったのですが、この方は貸したものを返しなさいと請求しません。

ここにあるどれをとっても私たちにとはとうていできない高いハードルに見えました。

クリスチャンになったならこのように生きなければならぬ、できるようになるまで努力しなくてはならないと思い込んでいました。私ははすべての人を愛することはできないけれど、この人のことを愛しているからそれで十分ではないかと妥協したくなりました。

そうではありません。イエスが求めているのは完全な愛です。ひとり愛しているから大丈夫というようなものではありません。そこまで求めているのです。だれかいったい合格しますか。だれもいません。「あなたの敵を愛しなさい。」イエスのみことばは、私たちの本当の姿を照らし出します。できない自分であることをもうごまかすことはできなくなります。自分には愛がありません。でも、もしそんな愛があればとも願っている自分もいます。これがまさにイエスが言われる「貧しいもの」の姿です。イエスは私たちを貧しいものとするために、わざとこのような厳しいお語り方をしておられたのでした。貧しい者はイエス・キリストに招くために語っておられます。この方にすがりなさいと語っておられます。

イエスはどうされますか。すぎる者を脇に追いやる方ではありません。できない者の代わりに、この方がすべて十字架で成し遂げてくださろうとします。この方は言われます。「わたしは、いのちを捨ててわたしの敵を愛し尽くす。」

高いハードルに聞こえた今日のみことば、実はイエスの恵みに満ちたみことばであったことに気がつき、御名をほめたたえます。